

2011.03月



ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

メディアカンファレンス 「たまゆら」から2年

## 「たまゆら」から2年——メディアカンファレンスを支援付き住宅推進会議と共催



2009年3月に起きた「静養ホームたまゆら」の火災では、東京都で生活保護を受けていた利用者10名が亡くなりました。あれから2年を迎えましたが、依然として生活保護受給者や低所得者が無届を含む他県施設を利用している問題は、いまでも解決していません。「たまゆら」以後、何がどう変わったのか、ふるさとの会では支援付き住宅推進会議と共催し、3月11日に報道関係者や行政関係者などをお招きしてメディアカンファレンスをさせていただきました。

集合場所の「新宿サポートセンターふるさと」の事務室には、行政関係者、各新聞社の記者、福祉事業に携わる方等、総勢15名が所狭しと参加されました。そこでの簡単な解説の後、車で移動して「自立援助ホームふるさと下落合館」と「就労支援ホームふるさと上池ハウス」をご案内しました。その後、サポートセンターに戻り、ふるさとの会から互助機能の実践と地域生活支援扶助の必要性を説明し、意見交換をしました。

ふるさとの会では困窮、単身、要介護、障害など様々な生活困難を抱える「四重苦」の方々に「支援付き住宅」のモデルとなる自立援助ホームを提供することで、住み慣れた地域での生活を支えてきました。

今回のメディアカンファレンスの集合場所となった「新宿サポートセンターふるさと」は2010年5月に立ち上げ、公営住宅や地域に住む生活が困難な方への支援をしています。ふるさと下落合館では「サポートセンター」と連携し、居住の提供と24時間体制の生活支援、社会サービスのコーディネートなど、現在24名の支援をしています。また緊急ショートステイも併設し、緊急でのニーズにも対応可能となっております。

生活保護費が3兆円を突破したというニュースは記憶に新しいですが、ふるさとの会では、若年者が高齢者等の支援をすることで相互に支え合える仕組み作りを模索しています。一例として、豊島区にあるふるさと上池ハウスの入居者は、新宿区にある下落合館に通勤し、そこで生活する高齢者等の生活支援や配膳等の仕事をして生計を立てていますが、この状況もご紹介させていただきました。

行政関係者からは今後の福祉事務所のあり方や、生活保護世帯だけではなく低所得者も含めた生活困窮者が地域や家族といった無償の互助ではなく「事業」としての互助をどのように成立させているのに関心があり、保険ではカバーできない「福祉」が必要だというご意見がありました。

新聞社の記者からは、生活保護制度をより活用した雇用づくりと互助づくりによる地域再生の取り組みを情報発信していきたいとのご意見がありました。

当日は見学の最中に東日本大震災が発生、東京でも大揺れして交通機関が麻痺しました。カンファレンスに参加された方で、帰宅困難に陥った人もおられたことと思います。この震災のため、18日に計画していた「たまゆら」2周年フォーラムは急遽中止することとし、推進会議とふるさとの会で「3.19から3.11へ」と題した共同声明を発表しました。今後の被災地における生活支援の取り組みを訴えたものです。これも是非ご覧ください。(渡邊雅文)

共同声明本文は下記のHPをご参照下さい

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail : [info@hurusatonokai.jp](mailto:info@hurusatonokai.jp)  
HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>